



# 鶏けいめい鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

## パウロの言葉

### 「各自収入に応じて」

聖書(第1コリント書16章2節)

牧師 河合裕志

パウロはエルサレム教会の貧しい信徒達を支援するために、行く先々の教会で募金を呼びかけることをした。彼の本務はキリストの福音の伝道だったけれど合わせて「愛のわざ」に怠りはなかった。

エルサレム教会には経済的困窮のうちにある人々が少なくなかった。その中心になる人達はイエスと共に北のガリラヤから殆ど無一物で来た。また新しくキリスト教に入った人達の中にはその信仰の故に職場をクビになる者も結構いた。

こうした人々を覚えての募金活動だがそこにはいくつかの要因が考えられる。①エルサレム教会からの求めがあった。その中心人物のヤコブ等から「貧しい人たちのことを忘れないように」と言われている(ガラテヤ2・10)

②エルサレム教会から恩を受けたとの思い。「異邦人はその人たち(エルサレム教会)の霊的なもの(キリストの福音)にあずかったのですから、肉のもの(物質、お金)で彼らを助ける義務があります」(ローマ15・27)

③幼い時から聞いて育った律法の教え。「この国に住む同胞のうち、生活に苦しむ貧しい者に手を大きく開きなさい」(申命記15・11)

④勿論イエスの言葉も。「受けるよりは与える方が幸いである」(使徒言行録20・35)。

次はパウロの募金のやり方。「週の初めの日(日曜)にはいつも、各自収入に応じて、幾らかずつでも手もとに取って置きなさい」。日曜日毎に行われる礼拝の際に各自募金用のお金を持参。それをためておいてパウロが来た時に託するという方法をとった。

それは収入に応じてということでは一律いくらか、というのではない。募金は金持ちだけがするのではなく貧しい人も出来る範囲です。10分の1を一応の目標とするならそれで行く。今日、日本にあつて貧しい人々の生活は憲法25条によって保障されている。感謝なこと。その経費は「各自収入に応じて」の税金による。

「各自収入に応じて」ということでは教会の献金もそう。それによって牧師への謝儀を含めて教会の維持発展がはかられている。献金は神の恵みを覚えて感謝して捧げられるもの。

今日でも「募金」の余地はある。世の中の自発的な良い働きのためには出来るだけこれに応じたいもの。

#### 集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

聖書を学び祈る会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時

お話し会、(面談)：水曜日午後1時～7時